

## 令和4年度 第2回千葉県社会福祉審議会老人福祉専門分科会 開催結果

- 1 日 時：令和5年1月31日（火） 午後2時から午後2時45分まで
- 2 場 所：千葉県自治会館 9階第1・第2会議室
- 3 出席委員（委員総数15名中9名出席）  
石渡哲彦委員、大河原伸浩委員、境野みね子委員、須賀田貞彦委員、田邊信行委員、  
中元 広之委員、八須祐一郎委員、林 房吉委員、藤野達也委員 （五十音順）
- 4 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) あいさつ
  - (3) 議題
    - ① 第3次千葉県生涯大学校マスタープラン（案）について
    - ② その他
  - (4) 閉会
- 5 議事概要  
第3次千葉県生涯大学校マスタープラン（案）について、配付資料に基づき事務局から説明し、事務局案のとおり決議され、審議結果について、千葉県社会福祉審議会委員長に報告をすることとなった。

委員からの意見等は以下のとおり。

### ○ 議題① 第3次千葉県生涯大学校マスタープラン（案）について

（委員）

意見が反映されて、かなり充実したプランになったが、1点確認したい。これまで2学部であったものが1学部になっているが、学部を残したということは、今後、将来にわたって学部を増やす予定があるのか。

学部が一つであればコースだけで済むと思うが、学部については、今後、展望があるのか教えてほしい。

（事務局）

学部については、そもそも学部の設定が必要かどうかということも検討したが、現場の方から、学部という名称があった方が学生の学習意欲が高まるといったような声があったことから、学部を残した。

コースの設置の趣旨としては、やはり全員に地域活動について学んでいただくということになるので、一つの学部で統一させていただいたところである。

(委員)

学部を増やすかどうかは今後のこととし、生涯大学校という名前が付いているので、学部を残す方がいいとは思う。

## ○ 議題②その他として、生涯大学校の運営等について

(委員)

自分がまずいろいろ学ぶという視点から一歩出て、地域との連携を生かしていくという形で発展的になり、より充実させた形の計画になったことを評価したいと思う。

お願いしたい点は、地域によって状況がいろいろ違うと思うので、生涯大学校で、皆さん方が、地域あるいは様々な関係の繋がりを経験というのも、この計画の実効性を高めるために、ぜひ集約、集積してほしい。

いろいろな地域での卒業生の動きや活動が地域によって違う中で、データを集め、また 次のプランに反映させるという教育の仕方をぜひお願いしたい。

(事務局)

このプランを実効性のあるものにしていくためには、地域との結びつきを強めるということ、それから、事例、データをきちんと収集するという、各学部に配置されているコーディネーターが、そういった横の連携を密にして、できるだけ良い事例を横展開していくといったことに、積極的に取組んでいきたい。

(委員)

高齢者という立場から、また卒業生、地域の役員、自治会長もやっているという繋がりの中から申し上げるので、参考にさせていただきたい。

このプランは、私たち高齢者が目指す、生き方の拠り所となる、大変すばらしいものだと思う。大変苦勞されてでき上がったものと、敬意を表したい。

生涯大学校を目指す方はたくさんいて、大勢の方がここで学んで、喜びを感じ、また自分自身が向上している、というところまではよいが、人材は作ったけれど、生涯大学校に行ったあとが繋がらない。地域に行けないのではなく、実際にはそれを受入れる地域が

少ない、またその場面がない。

生涯大学校を卒業した人は、卒業生たちで固まり、地域との繋がりが少ないのが現状である。いろいろな形で、地域と一緒にになれるような場面について考えを持っていただきたい。

卒業生の力を発揮できる要素があると、これからもっと学校が充実し、内容が活きてくるのではないかと思う。

#### (事務局)

卒業後、地域活動にしっかり結びつけるといった趣旨の御意見とお聞きした。

地域においても、住民主体の介護予防などの取組みを進めており、やはり元気な高齢者を人材として求めている自治体も多くあるのではないかと感じている。

そういった中で、生涯大学校の活動を地域にもっと知っていただく必要があると感じているので、県としても広報媒体を活用しながら、生涯大学校を周知していく。

それから、コーディネーター等を活用して、地域との結びつきを深めていくこと、魅力ある学園づくりといったことも重要と考えており、地域交流の場なども設けて、地域に還元していく取組も行っていきたい。

#### (委員)

今、高齢者の活動というのは、運動にしても、例えば、グランドゴルフを具体的な例でいうと、一般の人たちと、卒業生の方がそれぞれ自分たちで別々にやっている。やることが同じなのに、一緒にできない難しさがある。やはり卒業生は卒業生だけのグループになってしまう。

今後卒業する方々に、そういう地域を抱え込む形の指導や教育をしていただいて、地域に入る、あるいは地域で認められる卒業生になってほしい。

掲げた理想と現状は、まだだいぶ隔たりがあり、今後、新しい計画の中で、そういうものを十分取り入れていただきたい。